

「介護保険制度の改善を求める」 新署名を一気にすすめよう！



★5・26 署名提出行動(衆院第1議員会館)一介護請願署名=29.8万筆を提出

<4つの請願項目>

- ① 負担増・サービス削減の見直し中止
- ② 処遇改善・職員体制の強化
- ③ コロナ対策強化
- ④ 介護保険の抜本的見直し、国庫負担の引き上げ

全日本民医連 事務局次長

林 泰則

介護は国庫負担引上げが不可決

軍事費ではなく社会保障の増額を

・9月下旬から始まる介護保険部会で、介護利用料原則2割化が盛り込まれるかがポイント。ケアプラン有料化は介護の入口で利用控えが進む。要介護1・2の保険外しや福祉用具の見直しなど、改悪メニューが目白押し。いま必要なのは、介護の国庫負担の引き上げ。いま、ミサイルよりケアの充実。この声を広げることが大事になっている。

労働者・利用者家族・事業所の声

・第7波のクラスターで、30人の介護スタッフの半数が感染し、入居者の状態は悪化。介護の賃上げは3500円で、政府の言う9000円などもらえない。

・夫を12年在宅介護している。夫は要介護2で介護保険から外されたら困るし福祉用具レンタルが無くなる心配。

・母が認知症でショートステイを利用。月16万負担で、これ以上の負担は困る。

・私の運営するグループホームで大きなクラスターが出て疲れ切っている。介護施設に感染対策を押し付けておきながら、史上最悪の介護保険改定をしようとすることに怒りを覚える。利用者負担増は、介護施設側にとってもダメージを受ける。皆さんと一緒に運動していきたい。



秋の介護の闘い4つの柱

- ① 請願行動をこの秋に**全集中**する
- ② 全国で**大規模宣伝**に打って出る
- ③ 厚労省（審議会）を**包囲**する
- ④ 介護改善運動の**共同**を広げる

給付削減と負担増を食い止める

この秋、介護の大運動に決起を

・いま国が進める介護制度改定は、私たちが望む「安全・安心の介護」から遠ざけるものばかりで、国民の中に怒りが広がっている。介護の改善運動は、この秋が重要な時期、4つの柱を軸にして、新介護署名を職場と地域で思い切って進めていこう。

・中央社保協で横断幕を作成する。人権が守られる介護保障を目指して、全国の仲間と声をあげていこう。

介護する人・受ける人がともに大切にされる介護保障を



ケアプランの有料化やめて
介護利用料の原則2割化反対